６月２３日　第１回まちづくり評価委員会　会議概要

■日　時：平成 20 年６月 23 日（月）14:00～16:30
■場　所：消防局庁舎３階第２会議室
■出席者：（委員）
金井副委員長、菊池委員、駒井委員長、榊原委員、四宮委員、鈴木委員、田中委員、長井委員、西原委員、三村委員、室谷委員、森川委員（50 音順）
（事務局）
廣川企画調整部長、福本政策担当課長、黒澤主査、竹田、田部井
■傍聴者：１名
■資　料：別紙のとおり

概　　要

（開　会）

・　福本政策担当課長の司会のもと、資料確認を行った。

１　辞令交付

・　廣川企画調整部長から各委員に辞令書の交付を行った。
・　まちづくり評価委員会設置要綱第４条第２項により、委員長に駒井委員、副委員長に金井委員を指名した。

２　企画調整部長あいさつ

・　お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

（新世紀ビジョンについて）
・　委員の皆さまにこれから議論していただく「新世紀ビジョン」は、市の総合計画の根幹部分を成している基本計画の中で、特に力を入れていく分野を絞込み、平成 19 年１月に策定したものです。
・　絞り込んだ理由としては、２つあります。１つは、その分野が充分ではないとの認識から、もう１つは、厳しい財政状況の中、どの分野を重点的に行わなければならないかを整理し、重点的に投資を行わなければならない状況にあったことがあげられます。

（まちづくり評価委員会の役割について）
・　市役所が予算を組んで事業を行えば新世紀ビジョンがうまく推進されているとはなりません。市民、事業者の実感として、政策の方向性や事業の推進状況などが施策の目的に一致しないなどのご意見を委員の皆さまからいただきたいと思います。
・　市役所職員では、行政内部からになるので、物事の見方が一方向になる恐れがあります。委員の皆さまからの厳しいご意見・評価をいただき、来年度からの事業見直しや予

算編成に早期に反映させたいと思っています。

（まとめ）
・　委員の皆さまのお知恵をお借りし、最終目標である「元気な横須賀」の実現を目指していきたいと思いますので、何卒ご協力をお願いいたします。

3　委員会の公開等について

・　福本政策担当課長から「まちづくり評価委員会の会議の傍聴に関する要領」に基づき説明を行った。
・　第７条第６項にコンピューター等の使用制限が記述されていることについて、コンピューター等の使用を希望する委員、傍聴者がいる場合は、使用を許可することを全委員が了承。

4　委員および事務局紹介

・　各委員および事務局が自己紹介を行った。

5　まちづくり評価委員会の概要、進め方、スケジュールについて

・　事務局（竹田）から、資料１に基づき、まちづくり評価委員会の概要、進め方、スケジュールについて説明を行った。

6　新世紀ビジョンについて

・　事務局（黒澤主査）から、新世紀ビジョンおよび実施計画について説明を行った。

7　新世紀ビジョン市民アンケートについて

・　事務局（竹田）から、資料２に基づき、市民アンケートの概要について説明を行った。

（金井副委員長）
・　新世紀ビジョンの策定段階において実施した「まちづくり市民アンケート」では、環境対策が５番目に関心の高い分野となっている。しかし、策定された４つの将来像および８つの施策の方向性には環境についての分野がない。このことについて、市はどのように市民の声を把握できると思うか。

（事務局：竹田）
・　環境対策については、横須賀市の自然についての問題が中心となっている。サミットなどで議論される環境対策とは、違った分野であるとの認識である。
・　「多くの人が訪れるまち」や「子育て世代に選ばれるまち」の中でも、自然環境が大きく評価に影響してくるので、その中でテーマとなる可能性はあるが、環境対策という１つの柱を立てて進めることは考えていない。

（金井副委員長）
・　策定した「新世紀ビジョン」の推進状況の評価とは別に、策定時と現在で市民ニーズがズレていないかという評価も必要ではないか。

（事務局：竹田）
・　新世紀ビジョンの進ちょく管理とは別に、今まで評価の対象としてきた基本計画に合わせアンケートを３年ごとに実施しニーズを把握する予定である。今年度の課題にはならないが、３年後には課題になる可能性があると思っている。

（金井副委員長）
・　資料２　Ｐ．４６「『元気な横須賀』将来像、施策の方向性の散布図」について、「現在について」と「以前との比較について」で相関があるように見えるが、相関は有意に出ているか。

（事務局：竹田）
・　相関については未調査であるので調査しておく。

８　将来像ごとの検討

（１）将来像１　にぎわいを生む社会について

○　将来像１の現状
・　事務局（田部井）から、資料２および資料３に基づき、「多くの人が訪れるまち横須賀」「多くの人が働くことができるまち横須賀」「にぎわいを生む社会」について、市民アンケートの結果、目標指標の状況、主要事業の実施状況について説明を行った。

（菊池委員）
・　４０代以上の方々の回答数は多く、１５～１９歳の回答数が少ない。新世紀ビジョンの目標年度は１０年後を見据えているので、年代別に平均をとって送付しなければ、偏った意見で落ち着いてしまうのでは。また、どこに焦点をあててアンケートを行うのかを明確にしなければならない。

（榊原委員）
・　居住地域による差も見られる。

（事務局：竹田）
・　アンケートは毎年実施し、送付時には年齢階層ごとに同じ数を送付するようにしている。回答数が少ないのは、単純に回答率による差である。また、居住地域ごとに人口比による配分を行い送付しているので、人口が少ない逸見、田浦地域などは送付している総数が少なくなっている。
・　また、平均値をとり、人口の少ない地域に多く送付するようにすると、アンケート結果に人口の少ない地域の傾向が濃く出てしまう恐れもあるので、良し悪しがある。

（田中委員）
・　世の中の情勢として、退職して再就職を希望している男性や、子育てが終わり就職を希望する女性が増えているので、雇用分野で性別×年齢別のクロス集計を見たほうがよい。

（事務局：竹田）
・　検討したい。

○　将来像１が実現に向かっていることを実感できるか

（榊原委員）
・　湘南国際村には小学校がないので、子供たちは葉山に通っている。15 年前と比べ住みづらいまちとなっている。その原因として、交通の便が悪いことがあげられる。また、佐島のなぎさの丘についても、交通網の整理が必要である。
・　子供がその地域の小学校に通えないとなれば、子育て家族は住まなくなるので、若い家族は出て行き、高齢者家族が残ってしまうことになる。

（三村委員）
・　湘南国際村には、学校が建設される計画があった。しかし、湘南国際村から子安に向けての道路建設がなくなり、学校建設計画が自然となくなった。また、ＹＲＰについても、従業員のためのマンションが増え就学児童もかなり増えると予想していたが、実際には、横浜、川崎から通勤してくる者が多く、横須賀に住むものは少なかった。このような状況を市は予想していたのか。

（事務局：廣川企画調整部長）
・　湘南国際村のプロジェクトは、神奈川県主導のもと横須賀市と葉山町が協力して事業を進めていたが、２期３期と進めていくうちに、不動産業者の判断から、現在は住宅より緑地に力を入れていく方向になりつつある。そのため、当初予定していたまちづくりにはなっていないが、京急の協力を得てバス路線が通るようになっている。
・　まだ道路環境は整っていない状況であるが、湘南国際村から三崎方面に向かう道路が今後都市計画決定される予定になっている。一方で、中央から西地域に向かう道路の整備は進んできている。しかし、経済情勢等の影響によりたくさんの事業を進めることはできない状況ではある。
・　現在、湘南国際村に小学校を建設する状況ではないので、今後は交通網の整備を進めアクセスをよくし、子供たちが通学できる環境を整えることが現実的な解決策であると考えている。

（駒井委員長）
・　資料によると、来訪者については増えているが、雇用の場については厳しい意見が多い。

（長井委員）
・　「多くの人が訪れるまち横須賀」について、「思う＋やや思う」と回答した理由として、商業施設ではなく、美術館、芸術劇場、ソレイユの丘、くりはま花の国等の芸術・観光

施設の充実を挙げているが、それらの施設があるから多くの人が訪れるまちと判断してよいというのは、やや疑問を感じる。確かに以前との比較では、都市基盤は格段に充実してきてはいる。しかし、それらの施設が常時にぎわっているかといえば必ずしもそうは思わない。それらの施設については、いかにリピーターを増やすかが今後の課題であろう。

（室谷委員）

・　常時にぎわいを求めていくためには、商店街の活性化が重要。市の働きかけ（空き店舗対策等）よりも商店街自身がにぎわいについて取り組んでいかなければならない。今後のアンケートは商店街がどう思っているか意見を聞くようにしたほうがよい。

（三村委員）

・　資料２　Ｐ．５４「理由欄の分類」をみると、同じ事象をみているのに人によって感じ方が良い悪いと分かれている。マイナスの意見をプラスに変えていく施策が必要である。

（事務局：福本政策担当課長）

・　アンケート結果から、人により感じ方が異なっていることは承知している。良くなっていると思う意見が多いと『にぎわいを生む社会』に向かっていると捉えてしまうかもしれない。委員には、市民の実感を整理し、アンケート結果は１つの資料として、施策の方向性を検討してもらいたい。

（榊原委員）

・　ソレイユの丘は建設当初はにぎわっていたが、閑散期は低迷しているように見える。施設の整備は重要だが、付属設備を充実させる等のにぎわいを続ける努力が必要。地元の野菜などの売り方も工夫が必要。

（長井委員）

・　「にぎわいのあるまち」と言われると、東京の渋谷や横浜のみなとみらい地区をイメージしてしまう。にぎわいを求めるならば、横須賀のランドマークとなるような商業施設が不可欠と考えている。そのためには、現在の商店街の大規模な再開発が必要になる。この点について商店街の意見を集約する必要がある。

○　今後の方向性について

（菊池委員）

・　雇用の場を増やすためには企業側の事情も考慮しなければならないが、景気に影響される部分もある。
・　教育を受けた学生は東京、横浜に就職先を求めてしまうので、商工会議所では教育委員会と協力し、教育現場と産業界が結びつくよう、現在別々になっている現状を変えていく努力を行っている。教育の段階から地域産業に目を向け、また地元を意識するような試みを進めている。横須賀で働きたいと思わせる心の醸成が必要である。
・　少子化社会では、今後の社会を担う子供たちのことを考えて事業の取り組みを行い、産業と教育を融合させていかなければならない。

（鈴木委員）
・　アンケートだけに頼る評価は問題がある。発想を柔軟にし、にぎわいを生むための施策を創造していかなければならない。
・　住宅の建設においては、営利を考えずに住民の交通利便性等を重視してもらいたい。
・　逗子は若者、鎌倉は古都、横須賀は危険というイメージがあるので、横須賀にある軍港等のイメージを危険ではなく魅力あるものに変えていく転換が必要ではないか。

（室谷委員）
・　将来像は横断的に捉えて検討していかなければならない。障害を感じさせないまち横須賀の満足度が高いのは、駅舎エレベータの設置数が増えていることやノンステップバスの導入に要因があるが、実際として、商店街では車椅子で買い物することは困難である。障害に強い商店街を作れば商店街のＰＲにも繋がる。重層的にものを見るような視点が大切だと思う。

○　目標指標について

（金井副委員長）
・　「多くの人が訪れるまち」においては、目標指標の状況は悪いが、アンケートによる市民の実感は良い。また、「多くの人が働くことができるまち」においては、将来像の実現に向けよく取り組んでいるようだが、市民の実感は悪い。目標指標と市民の実感がずれていることをどう捉えるか考えなければならない。

（事務局：廣川企画調整部長）
・　犯罪の分野では、他市と比較しても危険は少ないのだが、市民の体感治安が悪いので犯罪が多いという意見が多くなっている。
・　指標は、数値がとれるものととれないものがあり、国勢調査のように５年ごとの数値しかないものもある。将来像の実現に向けた指標を設定していきたい。

（駒井委員長）
・　高齢者や若年者といった年齢層別に、良い悪いと思う理由の分析も必要ではないか。

（金井副委員長）
・　体感アンケートを説明できる指標の設定が社会科学では重要とされている。「多くの人が働くことができるまち」においては、体感に合う指標を検討し、アンケート結果とのずれをなくさなければならない。
・　市民の満足度が低い「多くの人が働くことができるまち」「犯罪がないまち」については重点的に指標を検討しなければならない。

（三村委員）
・　美術館展覧会事業の指標「美術館観覧者数」に市内の小学６年生が含まれているのでは。「多くの人がおとずれるまち」は、市外からの来訪者を対象にしているので、横須賀がにぎわうためには市外来館者数を把握しなければならない。

（田中委員）

・　「にぎわいを生む社会」の実現のために「多くの人が訪れるまち」「多くの人が働くことができるまち」を一緒に議論するのは疑問である。

・　雇用の分野において、就業意欲がある者への支援や雇用の場の確保に、どのくらいのニーズがあるか把握したことはあるか。現状として若い人は東京、横浜に就職を求めてしまうが、退職した高齢者や子育て中の女性は市内での就職を希望している。市内で就職を希望する人の属性を把握しなければ具体的な施策を打ち出せない。

・　アンケート等で商店街の意見を聴取することについて、住居と店舗を兼ねて商売を行っている人やフランチャイズのように店子で商売を行っている人がいるので、商店の形態を把握して意見等を求めなければならない。

○　今後の委員会の運営について

（駒井委員長・金井副委員長）

・　資料の量が膨大で議論するには範囲が広すぎる。将来像ごとにアンケート結果や目標指標の状況をＡ４用紙１枚程度にまとめてもらえないか。

・　第２回委員会では、将来像２、３、４を検討していかなければならないので、議論するために、各委員は意見をまとめてきて欲しい。

・　事務局が資料を要約し提案してきた議題について、委員会で議論していきたいと思う。

（事務局：福本政策担当課長）

・　次回以降は資料内容の説明は行わないようにする。

・　進行方法については、アンケート結果と主要事業の実施状況等を分析し、ある問題について行政はどう捉えればよいか等を提案する方法をとり、委員の意見をいただくこととしたい。

・　委員には、将来像ごとにアンケート結果や主要事業の実施状況の中での問題点をまとめてきていただきたい。

（閉　会）

第２回まちづくり評価委員会の開催日時・場所を確認して閉会とした。

以上